

産業振興の新たな指針について

1 策定の趣旨

区は、区内事業者が抱える課題に迅速かつ的確に対応してきたところであるが、区内産業を取り巻く環境の不確実性が増す中で、更なる産業の振興を図るためには中長期的な方向性を示す必要がある。

また、産業振興に関わるあらゆる主体の中でも“主役は事業者”であることから、“事業者と区が一体となって推進すること”を前提とした、産業振興の新たな指針となる「TAITO COMPASS～産業振興ビジョン～」(以下、「指針」という。)を策定する。

2 指針の定義

区内産業の振興を図るための中長期的な方向性を体系的に示すとともに、社会経済情勢の変化に応じた取り組みを展開する。

3 指針と関連計画の位置づけ

基本構想や長期総合計画を踏まえた指針であり、指針における区の取り組みについては関連する個別計画及び国や東京都の関連する計画・施策と連携を図る。

4 指針の期間

令和7年度から概ね10年間

5 策定の基本的な考え方

(1) 事業者と区が一体となって推進する

実現したい未来や目指す方向性を共有し共感できる、分かりやすい指針とする。

(2) 環境の変化に柔軟に対応できる

「実現したい未来から逆算して今何をすべきかを導き出す(バックキャスト)」を基本として指針を策定し、不測の事態が生じた際も、改めて実現したい未来と現状のギャップを整理し対応策を考えることで、社会経済情勢の変化にも柔軟に対応できる指針とする。

(3) 区の基本的な姿勢を示す

- ①挑戦する事業者を応援し、経営課題を抱える事業者に寄り添い支援する姿勢
- ②産業振興に携わる職員の取り組み姿勢

6 指針の骨子案・・・・・・・・・・・・・・・・・・別紙1

実現したい未来を示した「Vision」、実現したい未来に向けてなすべきこと「Mission」及び目的を達成するための行動「Action」で構成する。また、産業振興に携わる職員の取り組み姿勢「Stance」を明記する。

7 今後の予定

令和6年10月29日	第4回（仮称）台東区産業振興計画策定委員会 （以下、「策定委員会」という。）
第4回定例会	産業建設委員会（中間のまとめ）
12月	パブリックコメント
令和7年1月下旬	第5回策定委員会
第1回定例会	産業建設委員会（最終案）
3月	指針策定

【参考】策定体制・検討状況

学識経験者や業界団体代表、国や東京都の関係機関等により構成される策定委員会を設置し、検討・審議を行っている。

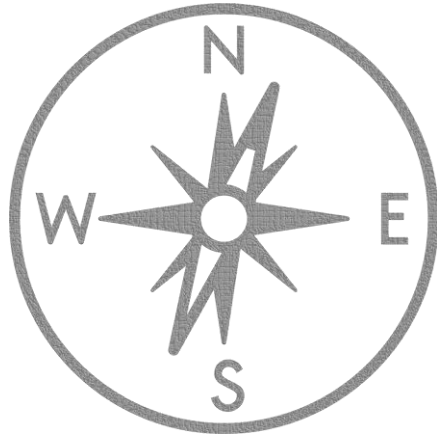
また、3つのテーマで意見聴取会を開催し、各テーマに取り組む事業者や関係者等から幅広い視点や専門的な観点から意見を聴取した。

令和5年度	区内産業の実態調査（アンケート、ヒアリング調査）
令和6年4月	第1回策定委員会（策定方針等について）
5月	第2回策定委員会（将来像、区内産業の現状と課題について）
6～7月	意見聴取会 （テーマ：「地域資源の活用」「事業者間のつながりを強化」「支援機関との有機的な連携」）
8月	第3回策定委員会（骨子案について）

指針名

TAITO

COMPASS



～産業振興ビジョン～

この指針は、「未来（Vision）に向かって今何をすべきかを考えて行動するもの」です。

地域経済を取り巻く環境は、常に変化しています。今求められていることは、先行きが不透明で将来の予測が困難な時代であっても、その時代を捉えて、Visionに向かって、今すべきことに本気で取り組むことです。

地域経済を活性化する主役は、事業者です。事業者と台東区が一体となって進むことで、更なる推進力を生みだします。

台東区の産業振興に関わるあらゆる主体は、この指針を「進むべき方角を示す“COMPASS（羅針盤）”」にして、Visionに向かって次の1歩を踏み出します。

Vision

らしさ いきる

ココロオドルまち

たいとうく産の“いい感じ”

“いい感じ”ってどんな感じ？

「売上が上がった（下がった）」等の一面的な見方ではなく、経営者の想い・考えを含めて、「事業転換により売上は下がったけれど、自分が本当にやりたいことができている」等の多面的な見方で「プラス」と捉える考え方です。

また、それぞれの事業者が「いい感じ」になるだけでなく、他者から「いい感じ」と思われる状態も含まれます。

そんな、それぞれが考える“いい感じ”の状態を指します。

【解説】「事業者と区が一体となって進む」指針とするため、事業者にとってわかりやすく、親しみやすいフレーズとするため、全体的に、硬い表現を使わずに平仮名やカタカナを使用しました。

台東区の多彩な魅力を“らしさ”という言葉で表現し、その“らしさ”を活かし、次代に繋いでいる（生きている）様子として「らしさ いきる」としました。

「らしさがいきる」台東区で、本気で取り組む、挑戦する事業者が、集まり・つながり・にぎわうことで、事業者も訪れる人も、誰もが心躍るまちの様子、その躍動感を「ココロオドル」とカタカナで記載し、強く印象に残る表現にしました。

台東区は多種多様な産業が集積しており、それぞれの事業者が考える“いい感じ”の状態を目指すことで、方向性を一つにまとめました。また、事業者の“いい感じ”や訪れる人などが思う“いい感じ”が台東区でうまれ、made in TAITOの“いい感じ”がたくさんあふれている状態を表現しました。

台東区は、上野や浅草、谷中などの各地域が特色を持つとともに、確かな技術に裏打ちされた地場産業や伝統工芸など、多種多様な産業が集積しています。

さらには、事業者の多彩な個性が、活気とにぎわいを呼び、まちの魅力となり、台東区「らしさ」を形作っています。

この「らしさ」は世界に誇るものであり、多彩な「らしさ」に人々は惹きつけられています。

ここは、事業者の本気の想いが、集まり、つながり、にぎわい、事業者も訪れる人も、誰もが心が動きワクワクするまち！

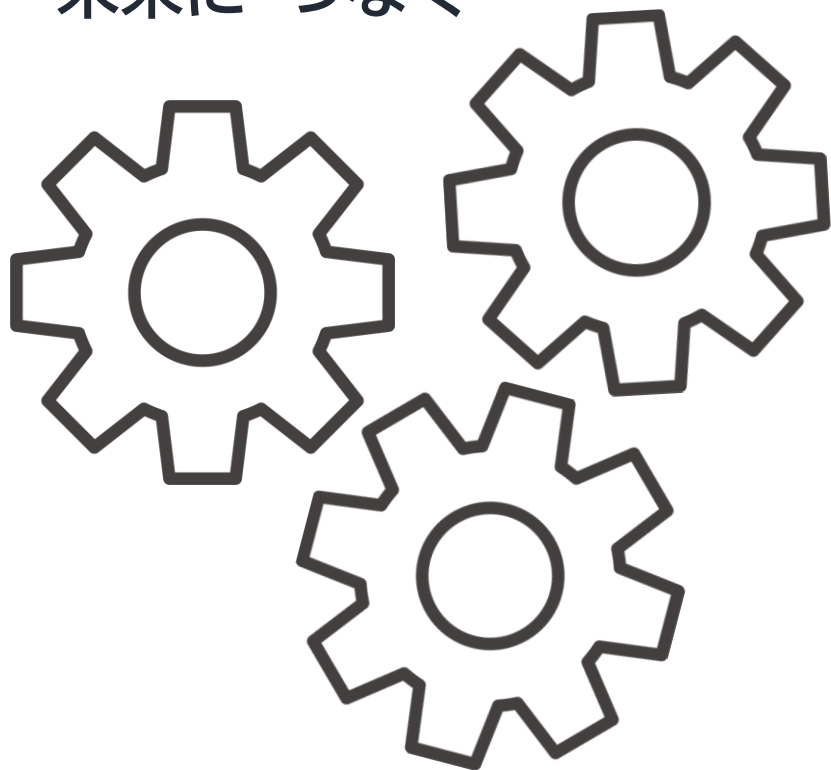
そんなまちから、それぞれの事業者の“いい感じ”がうまれ、ひろがり、たくさんの“いい感じ”にあふれ、台東区が盛り上がっています。

Mission

I らしさ みがく

II おもい ひろげる

III 未来に つなぐ



I らしさ みがく

まちの成り立ちを知り、特色や強みを理解し、地域にあるさまざまな魅力に気づき、活かすことで、「らしさ」は更なる強みとなります。多彩な「らしさ」をみがくことで、輝き続けます。

II おもい ひろげる

事業者の挑戦、志、悩み、葛藤などの想いを行動に変え、成長につなげます。また、本気の想いが重なり広がることでシナジーが生まれ、にぎわいにつながります。

III 未来に つなぐ

環境の急激な変化にも適応し、強い経営基盤をつくり、事業者の想いや技術を次代につないで、「輝くらしさ」「広がるおもい」を未来につなぎます。

体系図

TAITO COMPASS ～産業振興ビジョン～

Vision	らしさ いきる ココロオドルまち たいとうく産の“いい感じ”		
Mission	I らしさ みがく (まちの価値と魅力を高める)	II おもい ひろげる (想いを形にする)	III 未来に つなぐ (時流を捉え変化に適応する)
Action	①誰もが知る「ものづくりのまち」へ ②伝統工芸を次代につなぐ ③地域とともに成長する商店街に ④地域資源を活かす	①経営を強くする ②起業・創業への挑戦 ③同志とつながる	①時代の変化に適応する ②事業者の想いや技術をつなぐ ③担い手の育成

Stance (産業振興に携わる職員の取り組み姿勢)

産業振興に携わる職員は「台東区を盛り上げたい!」という想いのもと、挑戦する事業者を応援し、経営課題を抱える事業者に寄り添い支援します。

そのために、3つの姿勢で事業に取り組み、気軽に相談でき、顔が見える関係の「頼られる存在」を目指します。

1 どんどん動く

目的を理解した上で、現場を見て、声を聞き、何を求められているか、何が最善であるかを考え、実行し、効果的な手段への切り替えも果敢に行います。

2 ニーズをつなぐ

事業者のニーズを把握し、事業者・地域・支援機関等、それぞれをつなぐパイプ役を担います。

3 少しだけおせっかい

本気の事業者の想いを受け止め、もう一步踏み込んで動き、これからの挑戦に寄り添い、応援します。